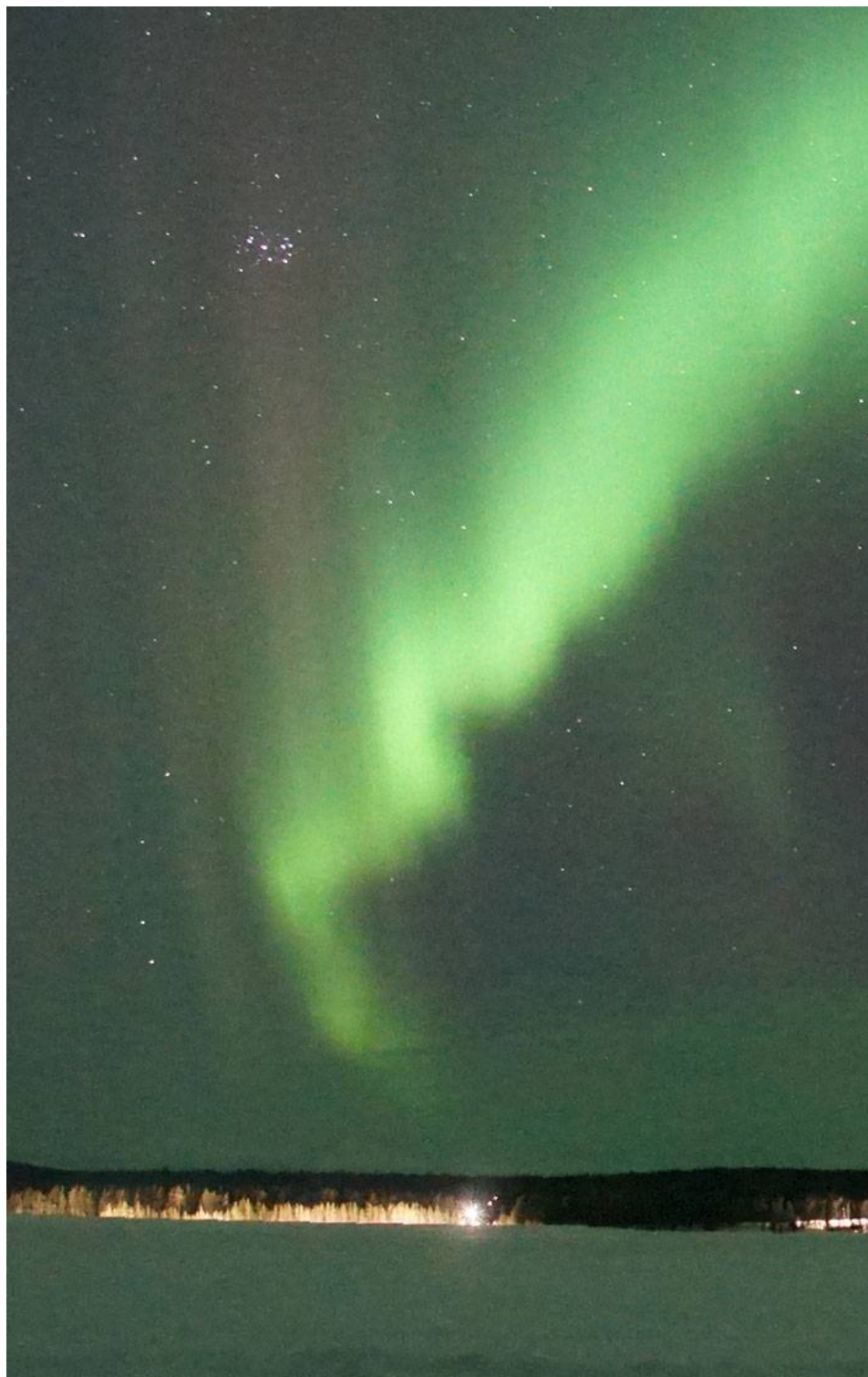


「すばる（昴）」というのは、おうし座にあるプレアデス星団の日本古来の名称です。肉眼でも六つから七つほどの星が小さく集まって見え、古くから季節の指標として人々に親しまれてきました。実際には数百個以上の若い恒星が重力でゆるやかにまとまった散開星団で、地球から約四百数十光年の距離にあります。青白く輝く星々は誕生して間もない若い存在で、周囲には星間物質の名残も漂い、淡い光のにじみとして写ることもあります。冬の澄んだ夜空に浮かぶその姿は、小さな宝石を散りばめたような美しさです。



そのすばるが、今夜はオーロラのベールをまとっていました。緑の光がゆるやかに流れる中に、確かな星の集まりが静かに浮かび上がります。さらに、磁力線によって形成されたオーロラレイの赤い一本が、まるですばるの存在を指し示しているかのように空へ伸びていました。地球近傍の高層大気で起きる発光現象と、はるか彼方の星団。その二つが同時に視界に収まる瞬間は、宇宙の階層の重なりを実感させてくれます。宇宙の渚で起きる現象と、深宇宙の光が織りなす、あまりにも美しいひとときでした。

2026年3月中旬
スウェーデン・ヨックモック郡
ポルユス駅
東京から遠隔観測